

岡田 旺己

OKADA Coco



merry commu VERSE

木材、アクリル、鉄

# merry commu VERSE

## 研究の背景

コロナ禍、ストレス社会などの現代の情勢もあり、ヒトとヒトの結びつきは希薄になっている。ヒトとのつながりを促進させるための力として、「カワイイ」をテーマとする。

## なぜカワイイなのか

カワイイものを見た時、人は誰かにそのカワイさを共有したくなる。例えば、友人とショッピングに出かけた際に可愛い小物や服をみつけたら、友人を呼び寄せてそのカワイさを共有するだろう。「これ、カワイイよね！」「みてみて、カワイイね～」といった同一対象に対するカワイの擦り合わせは軽くて手軽なコミュニケーションであるといえる。カワイの価値観の疎通ができると嬉しいし、相手と親しくなれる。以上から、私は「カワイイ」は感覚共有型のコミュニケーションツールになり得ると考えた。

## 方針

モダニズムが行きすぎてしまった現在、機能や品質を犠牲にしてもカワイイものを求める流れも存在している。例えば、コスメやお菓子などのレビューでは「パケ買い」という単語をよく見るようになった。コスメの品質やお菓子の美味しさよりも、パッケージやビジュアルのカワイらしさが購入の決め手となっているのだ。このような趣向は若い女性層に多くみられることから、「カワイイ」をテーマに据えた本修了制作も対象ユーザーを若い女性に設定する。

先述したようにカワイイもの(コスメ、お菓子、文具、ファッション etc.)は世の中に溢れている。本制作では「空間のカワイイ化」に取り組み、ヒトとヒトのコミュニケーションの促進を目指す。

## 『merry commu VERSE(メリーコミュバース)』

本作品は、「カワイイ」を共有してコミュニケーションを促進させるあたらしいストリートファニチャーである。

1年次には、天蓋の要素を体験してもらう実験を実施した。利用者に Google フォームによる匿名アンケートでは、空間のカワイイ化によるコミュニケーションの促進は効果的であるとの結果になった。

今まで通り過ぎられていたような空間に本作品を設置し、待ち合わせやちょっとした休憩スペース、映えスポットとして利用してもらうことを想定している。

屋根の部分はメリーゴーランドをモチーフに作られていて、テーマパークに来たような非日常感を醸し出している。天蓋で区切られた空間は半プライベート空間であり、ワクワク感・特別感を与える。また、その空間を3つの光で演出している。他にも、アクリルビーズ、浮遊感のあるテーブル、床面の大理石テクスチャなどは、ネオンライトとの相性を考慮して選択しており、空間をよりカワイイものにしている。